

1年女子 決勝

女子決勝戦は、札幌選抜と帯広選抜の対戦となった。札幌選抜は、チームの選手層が厚く、評判通りの戦いぶりで決勝へと駒を進めた。一方、帯広選抜は、予選・準決勝のどちらも OT の接戦を勝ち抜き決勝へと駒を進めた。

1Q 札幌#4、#9、#12、#15、#18、帯広#4、#7、#10、#12、#14 でゲームが始まる。帯広#4 のシュートが決まりゲームが始まった。札幌はオールコートマンツーマン、帯広はハーフコートマンツーマンで試合の流れを作ろうとしている。互いにタイトなディフェンスでどちらもなかなか得点を決められないまま3分が経過する。札幌#9、#12、帯広#4 が果敢にドライブを仕掛け得点が動き出す。両チームともに外のシュートも決まりはじめ、残り1分で 14-16 と帯広が2点リードする。どちらもなかなか流れをつかめないままゲームが進み、16-20 と帯広が4点リードして1Qを終えた。

2Q 札幌#5、#6、#7、#8、#10、帯広#6、#8、#9、#11、#15 でゲームが始まる。札幌のオフェンスはなかなかシュートが決まらない。オフェンスリバウンドを制し始めた札幌は、#7 の3P、#10 の2P と連続で決まり一気に逆転。帯広はたまたまタイムアウト。流れを断ち切りたい帯広だが、焦ったプレーでなかなかシュートまで持ち込めずミスをする。帯広#6 がタフショットを決めるが、すぐに札幌の反撃。札幌#10 の3P が決まり8点差になる。リバウンドが取れない帯広。対する札幌は#5 を中心に全員で必死にとびかかる。点差が12点となったところで、帯広は前半2度目のタイムアウト。帯広はディフェンスでダブルチームに行きはじめボールを奪い#8 が連続で速攻を決める。それでも札幌の勢いは止まらず、42-30 で前半を終えた。

3Q 札幌#4、#5、#8、#9、#12、帯広#4、#6、#7、#8、#16 でゲームが始まる。ベストメンバーの戦いでこう着状態が続く。どちらも粘り強いディフェンスで3分間以上得点が止まっている。それを打開したのは札幌#5 のポストプレー。札幌#8 のパワープレーでさらに得点を重ねる。帯広は4分以上得点をとれずタイムアウトをとった。札幌#4 がゲームをコントロールし始め、合わせのシュートも決まりだしじわじわと点差が開きだす。帯広もエース#4 で攻めたいが札幌#4 の厳しいマークになかなか仕事をさせてもらえない。54-31 と札幌が点差を23点に広げて3Qが終わった。

4Q 札幌#5、#6、#9、#10、#12、帯広#4、#6、#7、#8、#17 で最後の戦いが始まる。何としても追い付きたい帯広、必死にボールを奪いに行くが奪えずにファールがかさみ始めた。札幌は攻撃の手を緩めない。追いつきたい帯広はディフェンスをオールコートへと切り替える。メンバーを一斉に入れ替えた札幌だがそれでも勢いは衰えない。帯広は#7 の3P で一気に得点を近づけようとするがなかなか決まらない。対する札幌はゴール下のシュートを冷静に決めきる。最後は69-44 と25点差で札幌選抜が優勝を決めた。

点差はついたものの、最後まで諦めず戦い続ける帯広選抜と勝ちを確信せずに最後まで攻め続ける札幌選抜の両チームの健闘を称え大きな拍手を送りたい。

1年男子決勝

2年ぶり5回目の優勝を目指す帯広と、6回目の決勝進出を決め、地元で初優勝を目指す北見Aとの対戦。

1Q 帯広#4、#11、#12、#14、#15。北見A#11、#12、#14、#16、#17でスタート。ゲームは帯広#15のオフェンスリバウンドからの得点で動き出す。すかさず、北見Aも#12のドライブで同点とする。しかし、2試合目の疲れからか、その後は、お互いにアウトサイドからのシュートが決まらず、ロースコアの展開となる（残り2分00秒で6-4）。帯広はメンバー交代を頻繁に行いながら、リズムをつかもうとする。北見Aはディフェンスリバウンドをしっかりと支配し、主導権を渡さない。残り1分で帯広の持ち味のひとつである#4の1対1が決まり8-4となる。残り30秒で北見Aの#6がフリースローを2本決めるが、帯広も#12がフリースローを1本決め、9-6帯広リードで1Q終了。

2Q 帯広#6、#7、#10、#17、#18、北見A#5、#8、#10、#13、#17。立ち上がり、北見A#13のフリースローが2本とも決まり、1点差につめる。その直後に、北見A#5のポストプレーが決まり、北見Aが逆転。しかしすぐに、帯広#18のオフェンスリバウンドからの得点で再逆転。そして、リバウンドに強い帯広#10もバスケットカウントを決める。残り4分、帯広#8の3Pが決まる。両チームともにメンバー交代を行い、ディフェンスからリズムをつかもうとする。残り1分40秒、北見Aがターンオーバーしたところを帯広#6が速攻で得点（18-12）し、北見Aがタイムアウト。北見Aのチームファウルが4つになったところを、帯広はさらにドライブ中心に攻撃を作り、フリースローで得点を重ねていく。21-12で2Q終了。

3Q 帯広#4、#6、#10、#12、#14、北見A#5、#8、#12、#16、#18。9点差を追う北見Aは#5の得点で反撃開始。しかし、帯広がリバウンドを頑張り、点差を守る。そして、残り5分、帯広#6の3Pが決まり、このゲーム最大の11点差をつける。その後も#4のフリースローが決まり、13点差となったところで、北見Aが後半最初のタイムアウト（残り4分44秒、帯広29-北見A16）。タイムアウト直後の帯広はオールコートでトラップを仕掛け、スチールに成功。さらに15点差とする。しかし、粘る北見Aも#5、#10の連続得点で31対20となったところで、帯広後半1回目のタイムアウトを取り、流れを切る。帯広はその後も、チームでリバウンドを取り、北見Aの追撃をゆるさない。38-23、帯広リードで3Q終了。

4Q 帯広#4、#8、#12、#15、#18、北見A#5、#8、#11、#12、#14。出だし、北見Aの#17が連続3Pを決め、勢いづく。北見Aは高い位置からディフェンスを仕掛け、相手のターンオーバーを誘い、連続得点。42-33と、点差が一桁となったところで帯広2回目のタイムアウト（残り4分29秒）。その直後、さらに、北見A#13が3Pを決め、6点差となり、会場も北見Aの応援に沸く。残り2分を切り、北見A#18のドライブが決まり、ついに4点差まで縮めた。しかし、ボールキープ力のある帯広は、PGを中心にゲームをコントロールし、47-42と接戦をものにして優勝を決めた。

どちらのチームも、地区が広いと、練習を行うことが大変である。そのような中で、指導者・選手・保護者が一体となってここまで努力し、工夫されてきたことにも敬意を表したい。

2年女子決勝

1年生大会に続き連覇を狙う王者札幌に対し、昨年は2位リーグで苦杯をなめた石狩が挑戦する形で行われる決勝戦。

1Q 札幌⑥⑨⑩⑪⑬、石狩④⑥⑨⑩⑬で開始。札幌、開始早々、⑩佐野の速攻で得点。しかし、その後4分経過するが4対4とどちらも流れを掴めないままゲームが進む。石狩⑩細谷のミドルシュートで逆転。札幌がイージーシュートを落とす間に石狩が流れを引き寄せ10-4とリードを広げる。札幌はその後OFFリバウンドで巻き返し5点ビハインドで終える。

2Q 札幌④⑪⑬⑮⑱、石狩⑤⑦⑧⑪⑱。石狩⑤山口の連続得点で19-11とリードを広げる。札幌も⑱最上のジャンプシュートで追いあげる。2点差となったところで石狩タイムアウト(残2:15)。選手も入れ替え流れを変えにかかるが、札幌の勢いを止められず、逆転を許す(残0:54)。前半終了26-21札幌リード。

3Q 開始早々石狩⑥野原の連続ドライブで1点差に追いつく。対する札幌は⑭深井のリバウンドシュートで引離す。その後、試合は一進一退の様相。どちらもミスがあり流れを掴みきれない。そのなか石狩⑬上池が粘り強くシュートを決め、40-37と3点リードで最終Qを迎える。

4Q 開始30秒で石狩⑥野原、⑧松原の連続速攻でリード広げたところで、札幌がタイムアウト(残7:25)。その後、札幌は流れを変える強気の攻めを見せ、一気に逆転する。石狩はタイムアウト(残3:20)。選手も入れ替えて巻き返しを図る。しかし、札幌が高さを生かしたリバウンドからの得点を重ね追隨を許さない。5点差となったところで石狩がタイムアウト(残1:11)。石狩は相手のミスから一本返し3点差。すかさず札幌がタイムアウト(残0:36)。札幌はその後冷静にボールを回し、タイミングよくドライブ、そしてOFFリバウンドに絡み続け試合を決めた。最終的には要所で札幌のリバウンドの強さが光る試合となった。昨年に続き、優勝に輝いた札幌の選手・スタッフに賞賛をおくる。また、最後まであきらめずに戦った石狩チームの健闘を讃えたい。

2年男子決勝

ここまで順当に勝ち上がってきた両チーム。決勝戦は、去年の HJAS1 年生大会と同じ顔合わせとなった。札幌選抜 A は、豊富な運動量と選手層の厚さで危なげなく決勝まで勝ち進んできた。一方の石狩も決勝までは危なげなく駒を進めてきた。

札幌#4、#5、#6、#9、#11でスタート。一方の石狩は#4、#6、#7、#10、#15でスタート。お互いドライブからきっかけを作り互角の展開でゲームが始まる。残り3分台になってパスカットから石狩#4がゴール下をねじ込んだ。札幌も#5の3Pシュートが決まり一進一退の流れとなる。1Qは、23-14石狩の9点リードで終了した。

2Q 札幌#15の力強いゴール下のプレーから始まり、札幌が勢いを増す。石狩も#16のブレイクでやり返す。残り5分24秒27-20と札幌が追い上げムードの時に石狩が前半1個目のタイムアウト。その後も札幌の勢いのまま残り2分43秒。31-26石狩リードの場面で今度は札幌が1回目のタイムアウト。その後はお互いに一歩も引かないゲーム展開となり33-28、石狩の5点リードで前半を終了した。

後半開始早々札幌#14の1対1からの得点で始まった。その後も札幌の勢いは止まらず、#10、#5の連続3Pで一気に逆転した。残り5分、石狩は後半1回目のタイムアウトを取る。しかしながら、流れは変わらず44-46。札幌2点リードで3Qは終了した。

4Q、札幌は#5がフリースローを3本きっちりと決めて点差を広げようとする。石狩も#16のドライブで何とかついて行く。残り4分45秒、54-48、札幌リードで石狩は後半2回目のタイムアウト。しかし、札幌の勢いは止まらず、点差は一気に広がる。残り1分45秒、62-57。札幌がリードをした状態で札幌がタイムアウト。その後、石狩も最後の意地を見せるが、残り23秒で札幌#5の3ポイントが決まり、65-59となり、石狩は最後のタイムアウト。その後は札幌もタイムアウトを使い、最終スコア65-61で札幌選抜が優勝した。最後まで勝利を目指して力を発揮した両チームの健闘が素晴らしかった好ゲームであった。